

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)
分担研究報告書

「難治性腎障害に関する調査研究」PKD-WG

研究分担者

武藤 智 順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学・特任教授
望月俊雄 東京女子医科大学・多発性嚢胞腎病態研究部門・特任教授

研究要旨

【背景・目的・方法】

1. 「多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究」(J-PKD レジストリー研究):前向きコホート研究
2. 「患者さんご家族のための多発性嚢胞腎(PKD)療養ガイド」の作成
3. ADPKDの脳動脈瘤スクリーニング実態追跡調査
4. 常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)患者を対象とした肝嚢胞に関するQOL調査:多施設共同前向き観察研究
5. BMIがADPKDの進行速度に及ぼす影響について:米国と日本の国際比較研究
6. 本邦のADPKD患者におけるCKD G5期の実態調査(ADPKD G5レジストリー)

【結果及び考察】

1. 339例が登録された。男性124例(38.6%)、女性215例(61.4%)。平均年齢50.9±13.2歳。合併症では肝嚢胞は291例(85.8%)、脳動脈瘤66例(19.5%)、心臓弁膜症78例(23.0%)を認めた。登録時をベースラインとしてANOVA解析すると、eGFR($p = 0.0403$)は有意に低下したが、両側腎容積(TKV; $p = 0.7531$)、に有意差を認めなかった。CKD stage別の年間変化量はeGFR($p = 0.3393$)、腎長径($p = 0.6167$)は有意差を認めなかったが、TKV($p = 0.0125$)、身長補正腎容積(htTKV)($p = 0.0125$)はCKD stageが進行するほど有意に年間増大量が高かった。また、TKV年間変化率が5%以上の群($\Delta TKV < 5\%$)と未満の群($\Delta TKV \geq 5\%$)で比較すると、全体で有意差を認めず、CKD G4以外のstageに有意差を認めなかった。
2. 本ワーキンググループメンバーに7名の医師と6名の患者会代表を加えて作成委員会を構成した。ADPKD、常染色体劣性多発性嚢胞腎(ARPKD)それぞれに、病気を知る、診断まで、診断されたら、通院を始めたら、治療を考える、自分の状態を知る、合併症を知る、人生を考える、療養上の問題を考える、の項目を作成した。計55のQuestionを作成し、それに対するAnswerを医療者作成委員が作成中である。
3. 本邦ではMRAによるADPKDの脳動脈瘤スクリーニングが推奨されているが、各国によって対応が大きく異なる。そこで今後のガイドライン作成に対して実際本邦でどのようにスクリーニングが行われているかを実態調査した。日本腎臓学会研修施設に対してアンケート調査を行った。667施設中217施設(32.5%)から回答を得られた。回答いただいた施設の推定全患者数5,282人。85%の施設が全ての患者に対してスクリーニングを行っていた。脳動脈瘤を有する患者の64%がスクリーニングにより見つかった。
4. 対象群54例、コントロール群57例が登録され、計96例が3年目までの観察記録が終了した。登録時QOL調査ではFACT-Hep 55.8±11.1点(0-72点)、FANLTC 72.6±13.9点(0-104点)であった。FANLTC($p = 0.0499$)、FACT-Hep($p < 0.0001$)いずれも対象群とコントロール群の間で有意差を認めた。
経年変化を1年後($n = 102$)、2年後($n = 99$)、3年後($n = 96$)まで確認した。包括的QOLの経年変化は、 $p = 0.0082$ と肝嚢胞が大きい症例群の方が有意なQOLの低下を認めた。また、 $p = 0.0053$ と肝実質に対する嚢胞の割合が増大するにつれて包括的QOLが有意に低下した。肝特異的QOLも、肝嚢胞の割合が25%以上の群が有意なQOL低下を認めた($p = 0.0060$)。肝嚢胞の割合が0-24%、25-50%、50-75%、75%以上の4群で比較すると、 $p = 0.0015$ と肝嚢胞が大きいほど有意な肝特異的QOLの低下を認めた。

5. 本研究は、後ろ向き観察研究である。データソースとして United States Renal Data System (USRDS)と日本透析医学会(JSDT)のデータベースを利用する。
対象患者:2007年1月から2008年12月に日本または米国で透析導入された患者で、JSDTまたはUSRDSのデータベースに登録されているADPKD患者を対象とする。JSDTでは、通常、透析導入時の患者の特徴を調べていないが、2006年、2007年に全国調査を行い透析導入時患者臨床情報を収集しているので、この年度のデータを用いて分析をする。主要評価項目は透析導入時の患者年齢、副次評価項目は患者BMIである。現在 United States Renal Data System (USRDS)のデータベース回収は終了し、日本透析医学会のデータベース取得に向けて学会の承認を申請している。
6. 全国レベルにおけるADPKD G5期患者の実態調査とG4期までのトルバプタン服用有無によるG5期での腎機能障害進行度の違いを調査する

A. 研究目的

1. 「多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究」(J-PKD レジストリー研究): PKD 症例の治療実態、腎機能・容積、合併症を前向きに検討する。
2. 「患者さんご家族のための多発性嚢胞腎 (PKD) 療養ガイド」の作成: 近年の医療レベルの向上により多発性嚢胞腎に対する治療レベルも上がり、患者さんの認識も過去 10 年間で大きく進化している。患者さんご家族が本疾患に対して適切に理解し、今後の臨床判断の基礎となるような情報を取得できることを目的とした。
3. 本邦では MRA による ADPKD の脳動脈瘤スクリーニングがガイドラインにおいても推奨されているが、各国によって対応が大きく異なる。そこで今後のガイドライン作成に対して実際本邦でどのようにスクリーニングが行われているかを実態調査した。
4. 常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) 患者を対象とした肝嚢胞に関する QOL 調査: 巨大肝嚢胞を有する ADPKD 症例における QOL 低下の実態を把握することを目的とする。
5. 常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) の進行速度に BMI が影響するか否かを検討する。
6. 本邦における ADPKD 患者のトルバプタン内服適応基準である eGFR 15 における腎機能悪化抑制効果は示されているが、eGFR 15 (CKD G4 期まで) のトルバプタン内服有無による eGFR < 15 (CKD G5 期) での腎機能障害進行度に違いがあるかは報告されていない。ADPKD G5 レジストリーを構築し、G5 期の実態を全国レベルで明らかにすると同時に、G4 期までのトルバプタン内服の有無による G5 期での腎機能障害進行度の違いを調査する。

B. 研究方法

1. 多施設共同中央登録による前方向コホート研究であり、追跡期間は最終登録後 5 年。全ての登録症例が 2017 年 6 月 30 日までに追跡期間が終了し、統計解析を行った。一部欠損値に対しては多重代入法にて補完した。現在本邦の指定難病基準である、年間 TKV 増大率 > 5% の優位性を検討するために、混合効果モデルで TKV/year 5% 以上群と 5% 未満群の eGFR の比較を行った。
2. 本ワーキンググループメンバーに 8 名の医師と 7 名の患者会代表を加えて作成委員会を構成した。患者向けガイドラインに対しては、日本医療機能評価機構 Minds からの作成支援はない。われわれは日本国内には主に悪性腫瘍患者を対象に複数の患者向けガイドラインが存在するため、これを参考にした。医療者を対象とした診療ガイドラインとは異なり推奨・エビデンスは記載せず、作成委員会全員の同意の上作成することにした。
3. 日本腎臓学会研修施設に対してアンケート調査を行った。667 施設中 217 施設 (32.5%) から回答を得られた。
4. 適格基準: CT もしくは MRI で、肝嚢胞が肝実質の 25% 以上であると主治医が判断した ADPKD 症例。
除外基準: 肝切除あるいは肝移植手術施行例、20 歳未満。
多施設共同前向き観察研究 (現在 6 施設、登録数 64 例) (疫学分科会との共同研究)
マッチング方法 (frequency matching、年齢・性別・CKD ステージを考慮)
QOL 調査内容 (調査票、調査時期、郵送方式の採用)
エンドポイントの定義 (総合点数、各下位尺度点数)
サンプルサイズ計算 (肝嚢胞占拠割合による QOL スコア差の効果量を仮定)
共変量の選定 (QOL 評価時点、評価時点と直近の肝嚢胞占拠割合の交互作用、性別、年齢、CKD ステージ)
統計解析計画作成 (線形混合モデル)
UMIN 臨床試験登録 (受付番号 R000009467、試験 IDUMIN000008039)
FACT-Hep 及び FANLTC 調査票を用いた多施設共同前向き観察研究。肝嚢胞の肝全体に対する占拠率 25% 以上の群の QOL 低下を 25% 以下の群と 3 年間比較する。
目標症例数
対象群 (肝嚢胞占拠割合 25% 以上) 40 例
コントロール群 (肝嚢胞占拠割合 < 25%) 40 例
全ての症例が 2016 年 6 月 30 日に追跡期間を終了した。
5. 本研究は、後ろ向き観察研究である。データソースとして United States Renal Data System (USRDS) と日本透析医学会 (JSDT) のデータベースを利用する。
対象患者: 2007 年 1 月から 2008 年 12 月に

日本または米国で透析導入された患者で、JSDT または USRDS のデータベースに登録されている ADPKD 患者を対象とする。JSDT では、通常、透析導入時の患者の特徴を調べていないが、2006 年、2007 年に全国調査を行い透析導入時患者臨床情報を収集しているので、この年度のデータを用いて分析をする。

主要評価項目は透析導入時の患者年齢、副次評価項目は患者 BMI である。

6. 多施設共同後ろ向き観察研究。各研究参加施設での院内倫理委員会承認日～2021 年 3 月 31 日で施行する。研究参加施設がそれぞれの施設において責任者のもと匿名化を行い、対応表を作成したうえでデータ登録を行う。

(倫理面への配慮)

本研究は厚生労働省「臨床研究に関する倫理指針」を順守して行った。「多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究」(J-PKD レジストリー研究)、「常染色体優性多発嚢胞腎(ADPKD)患者を対象とした肝嚢胞に関する QOL 調査」いずれも、治療介入を一切行わない「観察研究」であるが、前向き研究であり、患者への研究に関する説明と患者の自由意思による。登録時に連結可能な患者識別番号を、各施設で決定して付与し、記入する。この患者識別番号は当該施設においてのみ連結可能であり、各施設で責任を持って管理した。

いずれの研究も、各施設倫理委員会の承認を得ている。さらに「多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究」(J-PKD レジストリー研究)(申請番号 6 番)、「ADPKD の脳動脈瘤スクリーニング実態追跡調査」(申請番号 54 番)に関しては日本腎臓学会倫理委員会でも承認されている。

本邦の ADPKD 患者における CKD G5 期の実態調査(ADPKD G5 レジストリー)は各施設倫理委員会で承認の得られた同意説明文書を研究対象者に渡し、十分な説明のうえ自由意志により同意を文書で取得する。ただし研究対象者が死亡あるいは各施設に通院されていない場合オプトアウトで代用する。(UMIN000039725)

C. 研究結果

1. 339 例が登録された。男性 124 例(38.6%)、女性 215 例(61.4%)。平均年齢 50.9 ± 13.2 歳。40 歳代が最も多かった。家族歴あり 232 例(70.0%)、なし 23 例(6.7%)、不明 86 例(25.2%)。合併症では肝嚢胞は 291 例

(85.8%)、脳動脈瘤 66 例(19.5%)、心臓弁膜症 78 例(23.0%)を認めた。登録時をベースラインとして ANOVA 解析すると、eGFR($p = 0.0003$)は有意に低下した。両側腎容積(total Kidney Volume: TKV)は 5 年間の経過観察で有意差を認めなかったが($p = 0.9486$)、TKV 年間変化量は 5 年間で有意に増大した($p = 0.0041$)。しかし、CKD stage 別の年間変化量は eGFR($p = 0.3393$)、腎長径($p = 0.6167$)は有意差を認めなかったが、TKV($p = 0.0125$)、htTKV($p = 0.0125$)は CKD stage が進行するほど有意に年間増大量が高かった。Mayo 分類別の年間変化量は eGFR($p = 0.4$)、TKV($p = 0.08$)ともに有意差を認めなかった。

TKV を目的変数として、腎容積増大速度に影響する臨床因子を検討すると、尿蛋白($p = 0.049$)および HDL-C 高値($p = 0.032$)が TKV の増大速度は速める因子であった。腎機能低下速度に有意に影響する臨床因子は、女性($p = 0.022$)、HDL-C($p = 0.015$)、登録時 eGFR($p = 0.007$)、log 尿蛋白($p = 0.030$)であった。混合効果モデルでは TKV 5% 群と<5% 群の差を認めなかった。

降圧療法は登録時 273 例(79.8%)、1 年目 260 例(79.0%)、2 年目 244 例(76.7%)、3 年目 226 例(77.7%)、4 年目 196 例(79.4%)、5 年目 133 例(74.7%)に行われた。いずれの時期においても有意な治療頻度の差を認めなかった。トルバプタンによる治療は 5 年目において 45 例(13.3%)の症例に対して行われている。

7 例(2.1%)の症例が登録時に血液維持透析が導入されていた。追跡期間 1 年目 21 例(6.2%)、2 年目 41 例(12.1%)、3 年目 57 例(16.8%)、4 年目 62 例(18.3%)、5 年目 69 例(20.4%)が導入された。腎移植は登録時 5 例(1.5%)に対して行われていて、1 年目に 2 例、2 年目に 2 例、3 年目 4 例、4 年目 2 例に対して行われた。最終的に計 15 例(4.4%)に対して行われた。また死亡例は 1 年目 2 例、2 年目に 1 例、3 年目に 5 例、4 年目 1 例、5 年目 2 例、計 3.2%に認めた。死因は肝不全 3 例、肝嚢胞感染 2 例、脳出血 2 例、虚血性腸炎 1 例、心不全 1 例、悪性リンパ腫 1 例、不明 1 例であった。

2. 以下のような目次で作成した
 1. 病期を知る - 多発性嚢胞腎とは - [ADPKD]
 2. 病気を知る

3. 診断まで
4. 診断されたら
5. 通院を始めたら
6. 治療を考える
7. 自分の状態を知る
8. 合併症を知る
9. 人生を考える
10. 療養上の問題を考える
[ARPKD]
11. 病気の原因と発症機序を知る
12. 診断まで
13. 診断されたら
14. 通院を始めたら
15. 合併症を知る
16. 療養上の問題を考える

全部で 55 個の Clinical Question を作成し、それに対する Answer を医療者作成委員が作成した。患者委員による修正も終了し、現在関連各学会の査読を行っている。

3. 以下のようなアンケートを行った。

問 1: 貴施設の ADPKD 患者数をお答え下さい。

問 2: 脳動脈瘤スクリーニングを行っていますか？

1. すべての患者に行っている (行うようにしている)
2. 家族歴のある患者のみ行っている (行うようにしている)
3. すべての患者に行っていない

問 3: スクリーニングで脳動脈瘤が発見された患者数をお答え下さい。

初診前 (他病院で) _____ 人
初診後 _____ 人

問 4: 脳出血・くも膜下出血を起こしたことがある患者数をお答え下さい。

初診前 (他病院で) _____ 人
初診後 _____ 人

問 5: 未破裂動脈瘤の治療をした患者数をお答え下さい。

初診前 (他病院で) _____ 人
初診後 _____ 人

回答いただいた 667 施設中 217 施設 (32.5%) より解答をいただいた。施設の推定全患者数 5,282 人。85% の施設が全ての患者に対してスクリーニングを行っていたが、全く行っていない施設は 6% であった。患者全体では 12% の患者に脳動脈瘤を認め、そのうち 64% が集計施設のスクリーニングにより見つかった。脳出血・くも膜下出血は 4% の患者に認め、そのうち 75% が集計施設初診前に発症した。未破裂動脈瘤に対する治療歴は 4% に認め、そ

のうち 59% が初診後であった。

4. 対象群 54 例、コントロール群 57 例が登録され、計 96 例が 3 年目までの観察記録が終了した。登録時 QOL 調査では FACT-Hep 55.8±11.1 点 (0-72 点)、FANLTC 72.6±13.9 点 (0-104 点) であった。FANLTC ($p=0.0499$)、FACT-Hep ($p<0.0001$) いずれも対象群とコントロール群の間で有意差を認めた。

経年変化を 1 年後 ($n=102$)、2 年後 ($n=99$)、3 年後 ($n=96$) まで確認した。包括的 QOL の経年変化は、 $p=0.0082$ と肝嚢胞が大きい症例群の方が有意な QOL の低下を認めた。また、 $p=0.0053$ と肝実質に対する嚢胞の割合が増大するにつれて包括的 QOL が有意に低下した。肝特異的 QOL も、肝嚢胞の割合が 25% 以上の群が有意な QOL 低下を認めた ($p=0.0060$)。肝嚢胞の割合が 0-24%、25-50%、50-75%、75% 以上の 4 群で比較すると、 $p=0.0015$ と肝嚢胞が大きいほど有意な肝特異的 QOL の低下を認めた。

5. United States Renal Data System (USRDS) のデータベース回収は終了している。現在、日本透析医学会のデータベース取得に向けて学会の承認を申請している。
6. 現時点では、各施設にて倫理委員会に申請中である。今後報告予定。

D. 考察

1. JPKD コホート研究では、腎容積の継続的な増加、腎機能の継続的な低下を認めた。約 80% の症例では降圧剤が投与され、そのうち RA 系降圧薬は約 80% の症例に投与されていた。ADPKD では約半数の患者が末期腎不全にいたるとされているが、今回のコホートでは約 20% であった。ADPKD に対する根本的治療も開始されたことから、本邦の正確な疫学調査が必要と考えられた。JPKD コホート研究では、Mayo 分類間で eGFR、TKV ともに有意差を認めなかった。しかし、そもそも今回の前向きレジストリー開始時期 (2010 年) は、Mayo 分類の提唱 (JASN 2015) より前であり、study design としても使用は現実的でない。さらに本研究では個々の症例の腎画像診断を中央管理することが困難であり、Mayo 分類の typical と atypical (class 2A) の区別ができていないため、あくまで typical (class 1A-E) と仮定した場合の評価である。したがって今回のレジストリーではこの結果のみから Mayo 分

類の日本人の妥当性は判断できない。今回の検討では、女性、HDL-C は低い、尿たんぱくが多い、登録時eGFRが高い方がeGFR低下速度が速いことが示された。今後統計学的解析を進めるとともに、臨床的意義を検討していく。TKV 5%群と<5%群でeGFRの差を認めなかったことから、今回の検討では、TKV 5%が腎機能低下に影響することが示されなかった。

2. 本邦では、医療者向けの嚢胞腎(PKD)診療ガイドラインは以前より存在し、実際の医療で広く用いられている。日本では患者向け嚢胞腎ガイドラインは存在しないが、海外では複数の患者向けガイドラインが存在し、ADPKD に対してトルバプタン治療が始まったことや、ゲノム診断の今後の進展から、本邦の患者の希望が増すことに対応する必要がある。
3. 本邦のガイドラインでは「ADPKD に対する脳動脈瘤スクリーニングは推奨されるか？」という Clinical Question に対して「ADPKD では脳動脈瘤の罹病率が高く、破裂した場合には生命予後に大きく影響するため、脳動脈瘤のスクリーニングの実施を推奨する」としている。ADPKD において未破裂脳動脈瘤の罹病率は、ADPKD 以外と比較し有意に高く、さらにADPKD のなかでも特に脳動脈瘤やくも膜下出血の家族歴がある場合の罹病率は家族歴がない場合に比較し有意に高いことが知られている。また、海外からの報告では脳動脈瘤のスクリーニングが必要と考える腎臓内科医は 1/4 にすぎないことが報告されている。しかし、日本を含めたアジアやドイツ、ポーランドでは ADPKD の患者さんの脳動脈瘤合併頻度が高いことも報告されていて、国によって脳動脈瘤スクリーニングの意義は異なるとも考えられる。今回のアンケートでは、脳動脈瘤の約 60%が MRA によるスクリーニングで発見された。本邦のガイドラインで推奨する脳動脈瘤スクリーニングは多くの施設で行われ、実際多くの患者で動脈瘤を発見することができていた。今後、有解答施設に対して二次アンケートを行っていく予定である。
4. 包括的および肝特異的 QOL は経年変化でも、肝嚢胞<25%の対象群と比較して>25%の対象群では有意な QOL の低下を認めた。しかし肝嚢胞の割合を 25%おきに比較すると、75%を超える群では 75%以下の 3 群と比較して明らかに有意な QOL を認めたことから、cut

off 値を 75%とした場合の臨床的因子の比較も加えることにした。

5. ADPKD 進行に BMI が影響することは海外の複数の論文で示唆されている。しかし、明らかなエビデンスには乏しく日米の ADPKD 患者のデータから BMI の影響を明らかにする。
6. 現在 ADPKD に対する根治的治療薬としてトルバプタンが多くの国で投与されている。それぞれの国で、トルバプタンの使用条件は異なる。本邦では CKD G4 まで投与することが可能である。CKD G4 に対するトルバプタンの有用性は REPRISSE 試験で示された。しかし、トルバプタン投与が G5 となった後の腎機能低下速度にどのように影響するかは不明である。本研究ではトルバプタン投与群と非投与群で G5 後の腎機能低下速度を比較する。

E. 結論

1. J-PKD コホート研究は日本の唯一の PKD コホートであり、日本人の PKD の自然史ならびに治療介入の実態について報告する。
2. 「患者さんご家族のための多発性嚢胞腎(PKD)療養ガイド」を作成した。
3. ADPKD の脳動脈瘤スクリーニング実態追跡調査を行った。本邦の ADPKD 患者の脳動脈瘤のうち約 60%がスクリーニングにより発見されていた。
4. ADPKD における包括的および肝特異的 QOL は肝嚢胞占拠率の増大に伴って悪化した。
5. ADPKD 進行に対する BMI の影響を検証するために、日米患者のデータベース研究を行う。
6. ADPKD G5 の腎機能低下速度に G4 までのトルバプタン投与がどのように影響するか検討する。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Sato M, Kataoka H, Ushio Y, Manabe S, Watanabe S, Akihisa T, Makabe S, Yoshida R, Iwasa N, Mitobe M, Hanafusa N, Tsuchiya K, Nitta K, Mochizuki T. High Serum Phosphate Level as a Risk Factor to Determine Renal Prognosis in Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease: A Retrospective Study. *Medicines (Basel)*. 2020 Mar 12;7(3).
- 2) Ushio Y, Kataoka H, Sato M, Manabe S, Watanabe S, Akihisa T, Makabe S, Yoshida R, Tsuchiya K, Nitta K, Mochizuki T. Association between anemia and renal

- prognosis in autosomal dominant polycystic kidney disease: A retrospective study . Clin Exp Nephrol. 2020 Feb 8. doi: 10.1007/s10157-020-01856-1.
- 3) Kataoka H, Fukuoka H, Makabe S, Yoshida R, Teraoka A, Ushio Y, Akihisa T, Manabe S, Sato M, Mitobe M, Tsuchiya K, Nitta K, Mochizuki T. Prediction of Renal Prognosis in Patients with Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease Using *PKD1/PKD2* Mutations. J. Clin. Med. 2020 Jan 5;9(1)
 - 4) Muto S, Ando M, Nishio S, Han aoka K, Ubara Y, Narita I, Kam ura K, Mochizuki T, Tsuchiya K, Tsuruya K, Horie S. The relationship between liver cyst volume and QOL in Japanese ADPKD patients. Clin Exp Nephrol. 2019 Dec 26
 - 5) Sakuhara Y, Nishio S, Hattanda F, Soyama T, Takahashi B, Abo D, Mimura H. Initial experience with the use of trisacryl gelatin microspheres for transcatheter arterial embolization for enlarged polycystic liver. Clin Exp Nephrol. 2019; 23: 825-33.
 - 6) Mochizuki T, Teraoka A, Akagawa H, Makabe S, Akihisa T, Sato M, Kataoka H, Mitobe M, Furukawa T, Tsuchiya K, Nitta K. Mutation analyses by next-generation sequencing and multiplex ligation-dependent probe amplification in Japanese autosomal dominant polycystic kidney disease patients. Clin Exp Nephrol. 2019 Aug;23(8):1022-1030.
 - 7) Watanabe K, Fujii T, Makabe S, Nakajima H, Sato M, Kataoka H, Tsuchiya K, Nitta K, Mochizuki T. Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease with Emphysematous Polycystic Renal Infection That Required Surgical Treatment. Intern Med. 2019 Jan 1;58(1):85-89.
 - 8) Suwabe T, et al. Factors Influencing Cyst Infection in Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease. Nephron. 2019; 141(2): 75-86.
 - 9) Akihisa T, Ino A, Egawa H, Kotera Y, Ariizumi S, Oomori A, Yamashita S, Yamamoto Y, Tsuchiya K, Yamamoto M, Nitta K, Mochizuki T. A case of a maintenance hemodialysis patient with autosomal dominant polycystic kidney disease who underwent living donor liver transplantation alone due to refractory liver cyst infection. CEN Case Rep. 2018 Nov;7(2):307-312.
 - 10) Makabe S, Mochizuki T, Mitobe M, Aoyama Y, Kataoka H, Tsuchiya K, Nitta K. Elevation of the serum liver enzyme levels during tolvaptan treatment in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease (ADPKD). Clin Exp Nephrol. 2018 Oct;22(5):1079-1087.
 - 11) Muto S, Kawano H, Isotani S, Ide H, Horie S. Novel semi-automated kidney volume measurements in autosomal dominant polycystic kidney disease. Clin Exp Nephrol. 2018; 22: 583-90.
 - 12) Hama T, Nakanishi K, Sato M, Mukaiyama H, Togawa H, Shima Y, Miyajima M, Nozu K, Nagao S, Takahashi H, Sako M, Iijima K, Yoshikawa N, Suzuki H. Aberrant Smad3 phosphoisoforms in cyst-lining epithelial cells in the cpk mouse, a model of autosomal recessive polycystic kidney disease. Am J Physiol Renal Physiol. 2017 Dec 1;313(6):F1223-F1231.
 - 13) 武藤 智, 櫻井雅也, 岸 和正, 井上幸恵, 柴原秀俊, 永田眞壽粧美. 常染色体優性多発性嚢胞腎に対するトルバプタン治療の長期成績と生涯自己負担額の推計 . 腎と透析 . 2018;84: 469-76.
 - 14) 甲斐平康, 等 . 進行性 CKD 患者の蛋白・塩分摂取量に関する検討 ~ REACH-J-CKD コホート研究より ~ . 日腎会誌 . 2018;60: 394
 - 15) 渡邊めぐみ, 甲斐平康, 等 . 常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)前向きコホートとトルバプタン治療例の検討 . 日腎会誌 . 2018;60: 419
 - 16) 遠藤 真由美, 松尾 浩司, 堀池 眞一郎, の村 信介, 石川 英二, 原田 哲朗, 杉本 龍亮, 種村 彰洋, 伊佐地 秀司. トルバプタンの内服で肝不全に至った常染色体優性多発性嚢胞腎患者の一例 . 日腎会誌 . 2018;60: 734
 - 17) 石川 英二, 溝口 翔子, 小田 圭子, 平林 陽介, 鈴木 康夫, 春木 あゆみ, 伊藤 貴康, 藤本 美香, 村田 智博, 片山 鑑, 伊藤 正明. 多発性嚢胞腎患者の受診動向 . 日腎会誌 . 2018;60: 366
 - 18) 石川 英二, 村田 智博, 白井 由美子, 三木 誓夫, 濱田 康弘. 血液透析患者の栄養評価指標と生命予後 . 日本透析医学会雑誌 . 2018; 51 巻 Suppl.1: 661
 - 19) 石川 英二, 村田 智博, 土肥 薫. 腹膜透析研究の進歩と将来 特殊疾患 うっ血性心不全への適応 . 日本透析医学会雑誌 . 2018; 51 巻 Suppl.1: 357

2. 学会発表

- 1) Miura K, Sato Y, Nawashiro Y, Ando T, Iida T, Shirai Y, Ishiwa S, Shiratori A, Kaneko N, Yabuuchi T, Ishizuka K, Chikamoto H, Akioka Y, Hattori M. Treatment strategy for autosomal recessive polycystic kidney disease with end-stage kidney disease. 18th Congress of the International Pediatric Nephrology Association, Venice, Italy, October 19, 2019
- 2) Nakanishi K. Session 5 IgA Mephrtopathy and Henoch Schonlin Purpura Nephropathy. Koichi Nakanishi. Treatment of IgAN and HSP nephritis. 18th Congress of the International Pediatric Nephrology Association, Venice, Italy. 2019/10/17-21
- 3) Miura K, Shirai Y, Kunishima S, Ishiguro A, Hamada R, Ishikura K, Hattori M. A nationwide survey of long-term prognosis of Epstein syndrome. 18th Congress of the International Pediatric Nephrology Association, Venice, Italy, October 20, 2019
- 4) Miura K, Hattori M. Practice guidelines for pediatric peritoneal dialysis in Japan. The 9th Asia Pacific Chapter Meeting of International Society for Peritoneal Dialysis, Nagoya, Sep 6, 2019
- 5) Miura K, Sato Y, Nawashiro Y, Iida T, Taniguchi Y, Nagasawa T, Shirai Y, Takagi Y, Ban H, Kaneko N, Yabuuchi T, Ishizuka K, Chikamoto H, Akioka Y, Hattori M. Treatment strategy for end-stage kidney disease in pediatric autosomal recessive polycystic kidney disease. The 54th Annual Meeting of the Japanese Society for Pediatric Nephrology, Osaka, June 7, 2019
- 6) Miura K, Harita Y, Tsurumi H, Takahashi K, Igarashi T, Iijima K, Hattori M. Clinical manifestations and genetic analysis of primary distal renal tubular acidosis. ISN World Congress of Nephrology 2019, Melbourne, Australia, April 14, 2019
- 7) Uchida K, et al. Home-Based Aerobic and Resistance Exercise Training on Peritoneal Dialysis Patients: A Randomized Controlled Trial. American Society of Nephrology Kidney week 2018, San Diego, USA. 2018/10/23-28 .
- 8) Uchida K, et al. Dysbiosis in Renal Failure Causes Insulin Resistance and Leaky Gut. American Society of Nephrology Kidney week 2018, San Diego, USA. 2018/10/23-28 .
- 9) Hama T, et al. Urine biomarker potential for assessment of disease activity in pediatric nephrotic syndrome. American Society of Nephrology Kidney week 2018, San Diego, USA. 2018/10/23-28 .
- 10) Nakatani S, et al. The Oxidized Form of Serum Albumin, Non-mercaptalbumin Is Significantly Associated with Renal Function and Anemia in Chronic Kidney Disease Patients. American Society of Nephrology Kidney week 2018, San Diego, USA. 2018/10/23-28 .
- 11) Miura K, Harita Y, Tsurumi H, Takahashi K, Igarashi T, Iijima K, Hattori M. Clinical and genetic analyses of primary distal renal tubular acidosis. The 53rd Annual Meeting of Japanese Society of Pediatric Nephrology, Fukushima, June 29, 2018
- 12) Kai H, et al. A prospective study of the efficacy and adverse effects of tolvaptan for autosomal dominant polycystic kidney disease (ADPKD). 55th ERA-EDTA Congress, Copenhagen. Copenhagen. 2018/5/24-27.
- 13) Uchida K, et al. Exercise capacity and associated factors in Japanese patients on peritoneal dialysis. 17th congress of the International Society for Peritoneal Dialysis, Vancouver, Canada. 2018/5/5-8 .
- 14) Muto S, Mochizuki T, Tsuchiya K, Nishio S, Hanaoka K, Ubara Y, Nutahara K, Tsuruya K, Ishimura E, Narita I, Maruyama S, Horie S. The interim report of data in J-PKD registry. International Society of Nephrology Frontiers meeting. 2018/2/22-25, Tokyo, Japan.
- 15) Kawano H, Muto S, Horie S. Treatment effect of Tolvaptan treatment for CKD stage G4 ADPKD patients. International Society of Nephrology Frontiers meeting. 2018/2/22-25, Tokyo, Japan.
- 16) Miura K, Ishizuka K, Yabuuchi T, Kaneko T, Hisano M, Chikamoto H, Akioka Y, Okumi M, Ishida H, Tanabe K, Hattori M. ABO-incompatible living kidney transplantation with rituximab induction in children. International Society of Nephrology Frontiers meeting. 2018/2/22-25, Tokyo, Japan.
- 17) Horie S, Masuda M, Neuber S, Muto S, Okada T, Bergmann C. Pharmacogenomics of Tolvaptan's Inhibitory Effect on Kidney Volume Increase in Patients with Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease.

- Kidney Week 2017, 2017/10/31-11/5, New Orleans.
- 18) Muto S, Kawano H, Horie S. Novel semi-automated kidney volume measurements in Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease. Kidney Week 2017, 2017/10/31-11/5, New Orleans.
 - 19) Hama T, Tanaka Y, Sato M, Mukaiyama H, Togawa H, Shima Y, Nakanishi K, Yoshikawa N, Suzuki H. Urine biomarkers efficacy as a disease-activity parameter for children with IgA nephropathy. ASN Kidney Week 2017. New Orleans, USA. 2017/11/2
 - 20) Nakatani S, et al. Urinary Iron and Oxidative Stress: Association with Megalin in CKD. ASN Kidney Week 2017. New Orleans, USA. 2017/11/2
 - 21) Miura K, Harita Y, Ishizuka K, Yabuuchi T, Kaneko N, Kanda S, Sato A, Isojima T, Igarashi T, Hattori M. Clinical overview and long-term prognosis of Dent disease and Lowe syndrome in Japan. ASN Kidney Week 2017. New Orleans, USA. 2017/11/4
 - 22) Miura K, Harita Y, Takahashi N, Tsurumi H, Yasudo H, Isojima T, Hirata Y, Inuzuka R, Takizawa K, Toyofuku E, Nishimoto H, Takamizawa M, Sugawa M, Yanagisawa A, Inatomi J, Nogimori Y, Kinumaki A, Namai Y, Hattori M, Oka A. Mechanism of hyponatremia in Kawasaki disease: A role of nonosmotic ADH secretion and salt loss. The 13th Congress of Asian Society for Pediatric Research, Hong Kong, October 7, 2017
 - 23) Nakanishi K. Concurrent Session 2.2 Congenital Anomalies of the Kidney and Urinary Tract (CAKUT): Outcome of CAKUT. 13th Asian Congress of Pediatric Nephrology in conjunction with the 39th Malaysian Paediatric Association Annual Congress Incorporating the 2nd IPNA/AsPNA Junior Masterclass, Kuala Lumpur, Malaysia. 2017/10/6
 - 24) Nakanishi K. Concurrent Session 1.8 Acute Glomerulonephritis: Henoch Schonlein Purpura. 13th Asian Congress of Pediatric Nephrology in conjunction with the 39th Malaysian Paediatric Association Annual Congress Incorporating the 2nd IPNA/AsPNA Junior Masterclass, Kuala Lumpur, Malaysia. 2017/10/7
 - 25) Miura K, Harita Y, Ishizuka K, Kanda S, Sato A, Isojima T, Igarashi T, Hattori M. Nation-wide survey of genetic disorders with low molecular weight proteinuria—proposal of Japanese diagnostic criteria. The 52nd Japanese Society for Pediatric Nephrology, Tokyo, June 2, 2017
 - 26) 三浦健一郎, 藪内智朗, 藤枝幹也, 服部元史. 最近の腎移植後感染症: EB ウイルス—移植後リンパ増殖性疾患. 第 53 回日本臨床腎移植学会, 2020/2/19
 - 27) 中西浩一. アルポート症候群を中心とした小児科領域の遺伝子診断 (教育講演). 第 14 回九州遺伝子診断研究会. 沖縄. 2019/11/30.
 - 28) 三浦健一郎, 白井陽子, 飯田貴也, 安藤太郎, 石和翔, 白鳥孝俊, 藪内智朗, 金子直人, 石塚喜世伸, 近本裕子, 秋岡祐子, 山村智彦, 野津寛大, 飯島一誠, 山口裕, 服部元史. 蛋白尿なく CKD ステージ G3 を呈した常染色体優性 Alport 症候群の 1 例. 第 41 回日本小児腎不全学会学術集会, 高知, 2019/11/28
 - 29) 三浦健一郎, 服部元史. 小児・新生児の急性血液浄化療法の現状と課題: エンドトキシン除去療法. 第 30 回日本急性血液浄化学会, 浜松, 2019/10/27
 - 30) 武藤 智. 遺伝カウンセリング 遺伝性腎疾患と遺伝カウンセリング 最も多い遺伝性腎疾患: 常染色体優性多発性嚢胞腎. 第 49 回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2019/10/4-5.
 - 31) 諏訪部達也. 嚢胞性肝患者へのインターベンション 常染色体優性多発性嚢胞腎に伴う嚢胞感染症の新しい治療戦略. 第 49 回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2019/10/4-5.
 - 32) 石川英二, 溝口翔子, 小田圭子, 平林陽介, 春木あゆみ, 伊藤貴康, 藤本美香, 村田智博, 片山 鑑, 伊藤正明. 妊娠中の腎生検で IgA 腎症と診断した 2 症例. 第 49 回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2019/10/4-5.
 - 33) 三浦健一郎, 張田 豊, 鶴見晴子, 高橋和浩, 五十嵐隆, 飯島一誠, 服部元史. 一次性遠位尿細管性アシドーシスの臨床像と遺伝子変異の解析. 第 23 回腎間質障害研究会, 東京, 2019/9/21
 - 34) 三浦健一郎, 白井陽子, 金子直人, 飯田貴也, 安藤太郎, 石和翔, 白鳥孝俊, 藪内智朗, 石塚喜世伸, 古澤美由紀, 海上耕平, 角田洋一, 奥見雅由, 石田英樹, 田邊一成, 小池淳樹, 本田一穂, 山口裕, 服部元史. 糸球体係蹄に linear な IgG 沈着を認めた慢性活動性抗体関連型拒絶の 1 例. 移植腎病理研究会第 23 回学術集会, 名古屋,

- 2019/7/20
- 35) 仲谷慎也, 等. シンポジウム「インパクトある臨床研究」VDRA vs.カルシメテクスー血液透析患者における二次性副甲状腺機能亢進症治療にどちらを選択するか (VICTORY 試験). 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜. 2019/6/28-30
- 36) 平林陽介, 溝口翔子, 小田 子, 春木あゆみ, 伊藤貴康, 村田智博, 片山 鑑, 石川英二, 伊藤 明. 当院における腹膜透析早期離脱原因の検討. 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜. 2019/6/28-30
- 37) 石川英二, 溝口翔子, 小田圭子, 平林陽介, 春木あゆみ, 伊藤貴康, 藤本美香, 村田智博, 片山 鑑, 土肥 薫, 伊藤正明. 腹膜透析を行った重症心不全合併患者の生命予後. 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜. 2019/6/28-30
- 38) 浜 武継, 島 友子. 多発性嚢胞腎における Activators G protein 7 の関与. 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 39) 甲斐平康, 等. 常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) における腎機能・腎血漿流量に関する検討. 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 40) 三浦健一郎, 白井陽子, 國島伸治, 濱田陸, 石倉健司, 服部元史. エプスタイン症候群の長期予後に関する追跡調査. 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 41) 三浦健一郎, 長澤将, 小椋雅夫, 倉山亮太, 松村英樹, 松本真輔, 石川英二, 川口武彦, 鶴屋和彦, 乳原善文. 2018 年腎生検二次アンケート調査結果 (小児). 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 42) 諏訪部 達也. 常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) 患者の治療及び病態の解明. 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 43) 関根章成, 星野純一, 藤丸拓也, 諏訪部 達也, 等. 家族歴の明らかでない PKD における遺伝子変異と腎予後. 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 44) 村田智博, 溝口翔子, 小田圭子, 平林陽介, 伊藤貴康, 片山 鑑, 石川英二, 伊藤正明. 腎生検時に行っている OGGT は臨床的に有用か? 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 45) 石川英二, 長澤 将, 川口武彦, 勝野敬之, 森川 貴, 三浦健一郎, 丸井祐二, 原 重雄, 鶴屋和彦, 乳原善文. 2018 年腎生検二次アンケート調査結果 (腎生検リスク要因: 成人). 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 46) 長澤 将, 川口武彦, 勝野敬之, 森川 貴, 丸井祐二, 原 重雄, 石川英二, 三浦健一郎, 鶴屋和彦, 乳原善文. 腎生検後に TAE となった患者背景についての検討. 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 47) 石川英二. 診療ガイドラインに強くなる 作成方法を理解して信頼できる診療ガイドラインを活用しよう. 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 48) 中西浩一. アルポート症候群総論. シンポジウム 11「アルポート症候群～新たな展開～」. 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 49) 中西浩一. 常染色体劣性多発性嚢胞腎 (ARPKD). シンポジウム 13「Ciliopathy 繊毛関連疾患のアップデート」. 第 62 回日本腎臓学会学術集会. 名古屋. 2019/6/21-23.
- 50) 三浦健一郎. 新専門医制度の現状と今後—専門医更新・講習会審査. 第 122 回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019/4/19
- 51) 中西浩一. アルポート症候群. ワークショップ「小児腎疾患のガイドラインの現状と今後」. 第 54 回日本小児腎臓病学会学術集会. 大阪. 2019/6/8.
- 52) 三浦健一郎. 小児の維持輸液療法を考える pros. 等張性電解質輸液 (糖入) 製剤を選択し, Holliday-Segar's 計算式とは異なる輸液量算出方法を推奨する—hospital-acquired hyponatremia の見地から. 第 122 回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019/4/20
- 53) 武藤 智. 教育企画 7 遺伝性腎・泌尿器疾患と遺伝カウンセリング 腎泌尿器科領域の遺伝性疾患: ADPKD. 第 107 回日本泌尿器科学会総会. 名古屋. 2019/4/18-21.
- 54) 鈴木康夫, 水谷有希, 野田健太郎, 杉谷直大, 石川英二, 中島亜矢子. ループス腎炎の 1 年後の治療反応性と腎予後に関する検討. 第 63 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 京都. 2019/4/15-17.
- 55) 内山 清貴, 他. CKD における dysbiosis はサルコペニアを惹起する～無菌マウスを用いた検討～. 第 9 回日本腎臓リハビリテーション学会. 大分. 2019/3/8-10.
- 56) 内山 清貴, 他. 腹膜透析 (PD) 患者におけるシャトルウォーキングテスト (ISWT) の有用性～横断研究および介入試験から～. 第

- 9 回日本腎臓リハビリテーション学会 . 大分 . 2019/3/8-10 .
- 57) 三浦健一郎, 服部元史: 最近の小児腎不全と腎移植 . 日本臨床腎移植学会腎移植認定医第 16 回集中教育セミナー, 大阪, 2019/2/15
- 58) 井上愛莉沙, 石川英二, 白井由美子, 村田智博, 檜地彩実, 山田苑子, 鈴木佳子, 三木誓夫, 濱田康弘 . Protein-Energy Wasting(PEW)と高リン血症の 5 年生存率に及ぼす影響 維持血液透析患者での検討 . 第 22 回日本病態栄養学会年次学術集会 . 横浜 . 2019/1/11-13 .
- 59) 三浦健一郎, 石塚喜世伸, 藪内智朗, 金子直人, 高木陽子, 伴英樹, 白井陽子, 長澤武, 谷口洋平, 飯田貴也, 久野正貴, 近本裕子, 秋岡祐子, 奥見雅由, 石田英樹, 田邊一成, 服部元史: リツキシマブを用いた小児 ABO 血液型不適合腎移植の検討 . 第 40 回日本小児腎不全学会学術集会, 宮崎, 2018/11/8
- 60) 三浦健一郎, 服部元史: 腎臓病におけるアフェレシス療法の意義と今後の展開—ABO 血液型不適合生体腎移植 (DSA 陽性例含む) . 第 39 回日本アフェレシス学会学術大会, 岡山, 2018/10/27
- 61) 三浦健一郎, 服部元史: 小児重症疾患治療におけるアフェレシス治療の位置づけ—小児重症腎疾患 . 第 39 回日本アフェレシス学会学術大会, 岡山, 2018/10/27
- 62) 望月俊雄, 武藤 智 . シンポジウム 2 PKD 医学の最先端 . 患者さんのための多発性嚢胞腎診療ガイドライン . 第 48 回日本腎臓学会東部学術大会 . 東京 . 2018/10/20,21 .
- 63) 武藤 智 . シンポジウム 2 PKD 医学の最先端 . トルバブタン治療 up-to-date . 第 48 回日本腎臓学会東部学術大会 . 東京 . 2018/10/20,21 .
- 64) 河野春奈, 武藤 智, 堀江重郎 . ADPKD における脳動脈瘤, 心弁膜症の実態 . 第 48 回日本腎臓学会東部学術大会 . 東京 . 2018/10/20,21 .
- 65) 福岡 日向, 片岡 浩史, 真壁 志帆, 新田 孝作, 望月 俊雄 . 常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) の遺伝子変異による腎予後の解析 . 第 48 回日本腎臓学会東部学術大会 . 東京 . 2018/10/20,21 .
- 66) 山口 華乃子, 井野 文美, 種田 積子, 望月 俊雄, 田中 淳司, 新田 孝作 . 細線維状構造物を伴う近位尿管症を合併した低悪性度 B 細胞リンパ腫の一例 . 第 48 回日本腎臓学会東部学術大会 . 東京 . 2018/10/20,21 .
- 67) 桑原 加奈子, 秋久 太良, 若山 慈恵, 真壁 志帆, 佐藤 尚代, 新田 孝作, 望月 俊雄, 種田 積子, 森 崇寧, 蘇原 映誠, 内田 信一 . COL4A4 遺伝子新規ヘテロ接合体ナンセンス変異を認めた常染色体優性アルポート症候群の一例 . 第 48 回日本腎臓学会東部学術大会 . 東京 . 2018/10/20,21 .
- 68) 内山 清貴, 他 . 腹膜透析 (PD) 患者に対する運動療法の無治療対照無作為化 2 群並行群間比較試験および遵守率によるサブグループ解析 . 第 24 回日本腹膜透析医学会 . 東京 . 2018/10/6-7 .
- 69) 内山 清貴, 他 . 長期腹膜透析患者における, 継続した腎代替療法の結果としての生体腎移植 . 第 24 回日本腹膜透析医学会 . 東京 . 2018/10/6-7 .
- 70) 石川英二 . よくわかる腹膜透析導入基準と適応病態 . 第 24 回日本腹膜透析医学会 . 東京 . 2018/10/6-7 .
- 71) 三浦健一郎, 服部元史: 巣状分節性糸球体硬化症 (FSGS) の腎移植: 再発リスク評価と治療 . 第 54 回日本移植学会総会, 東京, 2018/10/5
- 72) 溝口翔子, 小田圭子, 平林陽介, 伊藤貴康, 村田智博, 片山 鑑, 石川英二, 伊藤正明 . 腹膜透析患者に生じた交通性陰嚢水腫の一例 . 第 48 回日本腎臓学会西部学術集会 . 徳島 . 2018/9/28-29 .
- 73) 小田圭子, 片山 鑑, 溝口翔子, 平林陽介, 伊藤貴康, 藤本美香, 村田智博, 石川英二, 伊藤正明 . UMOD 遺伝子に変異を認めた家族性高尿酸血症性尿管間質性障害の一例 . 第 48 回日本腎臓学会西部学術集会 . 徳島 . 2018/9/28-29 .
- 74) 遠藤真由美, 松尾浩司, 堀池眞一郎, の村信介, 石川英二, 原田哲朗, 杉本龍亮, 種村彰洋, 伊佐地秀司 . トルバブタンの内服で肝不全に至った常染色体優性多発性嚢胞腎患者の一例 . 第 48 回日本腎臓学会西部学術集会 . 徳島 . 2018/9/28-29 .
- 75) 三浦健一郎 . 小児の輸液療法—最近のトピックス . 研修医のための輸液セミナー 2018, 名古屋, 2018/9/16
- 76) 潮 雄介, 青山 有美, 真壁 志帆, 横山 貴, 望月 俊雄, 新田 孝作 . 酵素補充療法により尿中マルベリー細胞が消失した Fabry 病の 1 例 . 第 644 回日本内科学会関東地方会 . 東京 . 2018/9/8 .

- 77) 日高寿美, 小林修三: ジョイントセッション 腎臓リハビリテーションのエビデンス 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 横浜 2018/7/14,15
- 78) 三浦健一郎, 服部元史: FSGS の病因・病態. 第19回東京腎炎・ネフローゼ研究会, 東京, 2018/7/14
- 79) 三浦健一郎, 服部元史: 小児の水電解質管理. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 福島, 2018/6/30
- 80) 佐藤 啓資, 高部 朋, 唐澤 一徳, 真壁 志保, 片岡 浩史, 望月 俊雄, 鬼塚 裕美, 山本 智子, 柴田 亮行, 土谷 健, 新田 孝作. 腎外病変の合併が疑われた Fibrillary 腎炎の一例. 第63回日本透析医学会学術集会. 神戸. 2018/6/29-7/1.
- 81) 土谷 健, 片岡 浩史. 導入期調査の提案. 第63回日本透析医学会学術集会. 神戸. 2018/6/29-7/1.
- 82) 内山 清貴, 他. 腹膜透析(PD)患者における運動耐容能の評価. 第63回日本透析医学会学術集会. 神戸. 2018/6/29-7/1.
- 83) 三浦健一郎, 服部元史: 小児のアフェシス療法. 第63回日本透析医学会学術集会. 神戸. 2018/6/29-7/1.
- 84) 日高寿美, 小林修三. 教育講演3 透析患者にみられる末梢動脈疾患の病態と治療戦略. 第63回日本透析医学会学術集会. 神戸. 2018/6/29-7/1.
- 85) 伊藤貴康, 村田智博, 溝口翔子, 本多康裕, 小田圭子, 平林陽介, 鈴木康夫, 藤本美香, 片山 鑑, 石川英二, 伊藤正明. 血液透析での短期透析カテーテル留置に関する観察研究. 第63回日本透析医学会学術集会. 神戸. 2018/6/29-7/1.
- 86) 村田智博, 溝口翔子, 本多康裕, 小田圭子, 平林陽介, 春木あゆみ, 鈴木康夫, 伊藤貴康, 片山 鑑, 石川英二, 伊藤正明. 当院における腹膜透析関連腹膜炎の推移. 第63回日本透析医学会学術集会. 神戸. 2018/6/29-7/1.
- 87) 石川英二, 村田智博, 白井由美子, 三木誓夫, 濱田康弘. 血液透析患者の栄養評価指標と生命予後. 第63回日本透析医学会学術集会. 神戸. 2018/6/29-7/1.
- 88) 石川英二, 村田智博, 土肥 薫. 腹膜透析研究の進歩と将来 特殊疾患 うっ血性心不全への適応. 第63回日本透析医学会学術集会. 神戸. 2018/6/29-7/1.
- 89) 寺家千晶, 佐生 喬, 山田昌子, 山本晴香, 池澤優貴, 葛山弘子, 林 達也, 村田智博, 石川英二. 人工心肺関連急性腎障害における持続的血液濾過透析の有効性. 第63回日本透析医学会学術集会. 神戸. 2018/6/29-7/1.
- 90) 武藤 智, 望月俊雄, 土谷 健, 西尾妙織, 花岡一成, 乳原善文, 奴田原紀久男, 鶴屋和彦, 丸山彰一, 成田一衛, 堀江重郎. 多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究(J-PKD レジストリー研究): 最終報告. 第61回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 91) 望月俊雄, 武藤 智, 安田守良, 岡田 暢. Tolvaptan を新規に投与した ADPKD 患者の解析結果 SLOW ADPKD study の中間解析結果. 第61回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 92) 望月 俊雄. ゲノムから解く ADPKD ADPKD における次世代シーケンス(NGS) 解析の実際. 第61回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 93) 渡邊めぐみ, 甲斐平康ら, 常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)前向きコホートとトルバプタン治療例の検討. 第61回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 94) 溝口 満子, 西村 コミ, 前田 泰樹, 西垣 昌和, 程内 栄子, 松本 千香子, 山地 幸雄, 武藤 智, 望月 俊雄. 多発性嚢胞腎患者の病い経験の実態に関する研究 遺伝性の病いを家族に伝えること. 第61回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 95) 河野春奈, 武藤 智, 堀江重郎. ADPKD に対するトルバプタンの総投与量と治療効果の検討. 第61回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 96) 三浦健一郎, 張田 豊, 鶴見晴子, 高橋和浩, 五十嵐隆, 飯島一誠, 服部元史: 一次性遠位尿細管性アシドーシスの臨床的・遺伝学的検討. 第61回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 97) 小黒昌彦, 渡邊 駿, 山際 元, 水野裕基, 関根章成, 井熊大輔, 川田真宏, 平松里佳子, 住田圭一, 山内真之, 長谷川詠子, 早見典子, 諏訪部達也, 星野純一, 澤 直樹, 乳原善文, 高市憲明. CKD stage G3 以降の日本人 ADPKD 患者におけるトルバプタン増量の効果と安全性. 第61回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 98) 三浦健一郎, 服部元史: 移行医療における小児腎障害へのアプローチ: オーバービュー. 第61回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018/6/8-10.

- 99) 溝口翔子, 石川英二, 小田圭子, 平林陽介, 鈴木康夫, 春木あゆみ, 伊藤貴康, 藤本美香, 村田智博, 片山 鑑, 伊藤正明. IgG4 関連腎臓病の腎予後を予測する病理組織学的所見. 第 61 回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018/6/8-10.
- 100) 平林陽介, 溝口翔子, 小田圭子, 伊藤貴康, 村田智博, 片山 鑑, 石川英二, 伊藤正明. 当院における特発性膜性腎症の治療と治療 2 年後の腎予後との関係. 第 61 回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018/6/8-10.
- 101) 松尾浩司, 石川英二, 田之上明子, 町田博文, 伊藤宏雄, 岡本紳也, 大西孝宏, 野村信介, 伊藤正明. 高尿酸血症を伴う慢性腎臓病患者に対する XO 阻害薬の尿蛋白減少効果. 第 61 回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018/6/8-10.
- 102) 石川英二, 溝口翔子, 小田圭子, 平林陽介, 鈴木康夫, 春木あゆみ, 伊藤貴康, 藤本美香, 村田智博, 片山 鑑, 伊藤正明. 多発性嚢胞腎患者の受診動向. 第 61 回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018/6/8-10.
- 103) 真壁 志帆, 望月 俊雄, 片岡 浩史, 土谷 健, 新田 孝作. 常染色体優性多発性嚢胞腎に対するトルバプタン治療における肝酵素上昇についての検討. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 104) 川地 慧子, 片岡 浩史, 青山 有美, 真壁 志帆, 森山 能仁, 望月 俊雄, 土谷 健, 新田 孝作. 低 HDL 血症における腎予後の検討 低 HDL 血症は慢性腎不全の進行に関連する. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 105) 溝口 満子, 西村 ユミ, 前田 泰樹, 西垣 昌和, 程内 栄子, 松本 千香子, 山地 幸雄, 武藤 智, 望月 俊雄. 多発性嚢胞腎患者の病い経験の実態に関する研究 遺伝性の病いを家族に伝えること. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 106) 内山 清貴, 他. 腹膜透析患者に対する運動療法の有効性評価のための無治療対照無作為化 2 群並行群間比較試験. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 107) 内山 清貴, 他. CKD における腸内細菌叢の変化と腎性インスリン抵抗性症候群 (RIRS) の関連～無菌マウスを用いた検討～. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 108) 仲谷慎也, 他. ADPKD における高用量トルバプタン効果の検討. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 109) 三浦健一郎, 張田豊, 鶴見晴子, 高橋和浩, 五十嵐隆, 飯島一誠, 服部元史. 一次性遠位尿細管性アシドーシスの臨床的・遺伝学的検討. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 110) 三浦健一郎, 服部元史. 移行医療における小児腎障害へのアプローチ: オーバービュー. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 111) 日高寿美, 西村彰紀, 小田康弘, 松井賢治, 大木里花子, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 小林修三. 維持血液透析患者の認知機能はフレイルと関係する. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 112) 石山将希, 栗田泰郎, 平林陽介, 佐藤圭, 藤本直紀, 増田 純, 石川英二, 土肥薫, 藤井英太郎, 伊藤正明. 腎動脈狭窄を治療した透析患者の 1 例. 第 7 回臨床高血圧フォーラム. 京都. 2018/5/19-20.
- 113) 伊藤貴康, 藤本直紀, 石川英二, 土肥薫, 藤本美香, 村田智博, 伊藤正明. 透析患者の血圧管理 血液透析前後の血圧上昇と血圧値の評価. 第 7 回臨床高血圧フォーラム. 京都. 2018/5/19-20.
- 114) 藤本直紀, 伊藤貴康, 土肥 薫, 石川英二, 清原実千代, 武内 操, 小藪助成, 西村広行, 竹内敏明, 伊藤正明. シルニジピンが透析時高血圧患者の 44 時間血圧と血圧変動に与える効果の検討. 第 7 回臨床高血圧フォーラム. 京都. 2018/5/19-20.
- 115) 松尾浩司, 土肥 薫, 石川英二, 岡本隆二, の村信介, 伊藤正明. 血液透析患者における intradialytic hypertension と関連因子の検討. 第 7 回臨床高血圧フォーラム. 京都. 2018/5/19-20.
- 116) 石川英二, 鈴木康夫, 中島亜矢子. IgG4 高値でネフローゼ症候群を呈した膜性腎症に尿細管間質性腎炎を伴った 2 例 IgG4 関連腎臓病かループス腎炎か両者の合併か? 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 東京. 2018/4/26-28.
- 117) 鈴木康夫, 石川英二. 妊娠を契機に診断された全身性エリテマトーデス 2 例報告 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 東京. 2018/4/26-28.
- 118) 三浦健一郎, 服部元史. 小児腎移植と遺伝子検査—FSGS の再発リスク評価. 第

- 51 回日本臨床腎移植学会，神戸，2018/2/16
- 119) 井上愛莉沙，石川英二，白井由美子，村田智博，山田苑子，鈴木佳子，三木誓夫，濱田康弘．Protein Energy Wasting(PEW)の方が高リン血症よりも維持透析患者において生命予後に影響を与える．第21回日本病態栄養学会年次学術集会．京都．2018/1/12-14．
- 120) 河野春奈，武藤 智，堀江重郎．ADPKD に対するトルバプタンの治療効果．第47回日本腎臓学会東部学術大会．横浜．2017/10/28,29
- 121) 土肥 薫，松尾浩司，村田智博，石川英二，岡本隆二，藤井英太郎，山田典一，伊藤正明．維持血液透析患者における心臓疾患の特徴と機序 三重県内多施設共同前向き観察研究．日本高血圧学会総会．松山．2017/10/20-22．
- 122) 武藤 智．腎疾患ガイドライン解説2 教育講演7 エビデンスに基づく多発性嚢胞腎(PKD)診療ガイドライン2014．第47回日本腎臓学会西部学術大会．岡山．2017/10/13, 14
- 123) 鈴木康夫，榎屋友幸，溝口翔子，小田圭子，平林陽介，春木あゆみ，伊藤貴康，藤本美香，村田智博，石川英二，今井 寛，伊藤正明．慢性維持透析患者に発症したアスクロピル脳症の一例．第47回日本腎臓学会西部学術大会．岡山．2017/10/13-14．
- 124) 溝口翔子，小田圭子，平林陽介，鈴木康夫，春木あゆみ，伊藤貴康，藤本美香，村田智博，片山 鑑，石川英二，伊藤正明．原発性胆汁性胆管炎と間質性腎炎を合併した2症例．第47回日本腎臓学会西部学術大会．岡山．2017/10/13-14．
- 125) 小田圭子，溝口翔子，平林陽介，鈴木康夫，春木あゆみ，伊藤貴康，藤本美香，村田智博，片山 鑑，石川英二，大西孝宏，伊藤正明．リツキシマブ単回投与が奏功した再発性高齢者 ANCA 関連血管炎の一例．第47回日本腎臓学会西部学術大会．岡山．2017/10/13-14．
- 126) 村田智博，溝口翔子，小田圭子，平林陽介，鈴木康夫，春木あゆみ，伊藤貴康，藤本美香，片山 鑑，石川英二，伊藤正明．腹膜透析カテーテル留置時のカテーテルのたわみ具合が位置異常と関連する．第23回日本腹膜透析医学会学術集会・総会．北九州．2017/10/7-8．
- 127) 石川英二，溝口翔子，小田圭子，平林陽介，鈴木康夫，春木あゆみ，伊藤貴康，藤本美香，村田智博，片山 鑑，伊藤正明．腹膜透析カテーテルの位置異常は、腹膜透析継続期間や早期離脱に影響するか？ 第23回日本腹膜透析医学会学術集会・総会．北九州．2017/10/7-8．
- 128) 石川英二，村田智博．失敗から学ぶ腹膜透析 透析不足・除水不全症例から学ぶ適正透析の考え方．第23回日本腹膜透析医学会学術集会・総会．北九州．2017/10/7-8．
- 129) 浜 武継，島 友子，田中 侑，鈴木啓之．LDH 上昇と経度貧血を伴う突然の腎機能障害を認め、aHUS との鑑別を要した8か月女児例．第2回紀和TMA研究会．大阪．2017/9/2
- 130) 杉谷侑亮，岩田英城，葛山弘子，高濱航，木村早希，山田昌子，伊藤貴康，藤本美香，村田智博，石川英二．当院における新生児血液浄化療法の現状．第62回日本透析医学会学術集会・総会．横浜．2017/6/16-18．
- 131) 藤本美香，小田圭子，平林陽介，鈴木康夫，春木あゆみ，伊藤貴康，村田智博，石川英二，伊藤正明．神経疾患に対するアルブミン置換液を用いた血漿交換療法時の合併症の特徴．第62回日本透析医学会学術集会・総会．横浜．2017/6/16-18．
- 132) 佐生 喬，杉谷侑亮，高濱 航，木村早希，岩田英城，伊藤貴康，藤本美香，村田智博，石川英二．緊急搬送患者における急性血液浄化療法の実施状況．第62回日本透析医学会学術集会・総会．横浜．2017/6/16-18．
- 133) 後藤健宏，岩田英城，葛山弘子，高濱航，木村早希，杉谷侑亮，佐生 喬，伊藤貴康，藤本美香，村田智博，石川英二．浅大腿動脈治療後の血液透析が病変肢末梢血流量に与える影響．第62回日本透析医学会学術集会・総会．横浜．2017/6/16-18．
- 134) 村田智博，小田圭子，平林陽介，鈴木康夫，春木あゆみ，伊藤貴康，藤本美香，石川英二，伊藤正明．当院における腹膜透析カテーテル位置異常について．第62回日本透析医学会学術集会・総会．横浜．2017/6/16-18．
- 135) 石川英二，村田智博，土肥 薫．トータルリネアルケアにおける腹膜透析のあり方を再考する 腹膜透析のメリットを最大限に利用する 心不全合併例への適応．第62回日本透析医学会学術集会・総会．横浜．

- 2017/6/16-18.
- 136) 武藤 智, 望月俊雄, 安田守良, 岡田暢, 坂東孝介. Tolvaptan を投与した ADPKD 患者の患者背景, eGFR, TKV の変化, 安全性—SLOW—ADPKD study の中間解析結果. 第 60 回日本腎臓学会学術総会. 仙台. 2017/5/26-28
- 137) 武藤 智, 望月俊雄, 土谷 健, 西尾妙織, 花岡一成, 乳原善文, 奴田原紀久雄, 鶴屋和彦, 成田一衛, 丸山彰一, 堀江重郎. 多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究(J-PKD レジストリー研究): 中間報告. 第 60 回日本腎臓学会学術総会. 仙台. 2017/5/26-28
- 138) 石川英二, 小田圭子, 平林陽介, 鈴木康夫, 春木あゆみ, 伊藤貴康, 藤本美香, 村田智博, 伊藤正明. 腎生検に関連した重篤な出血性合併症患者の特徴と予後. 第 60 回日本腎臓学会学術総会. 仙台. 2017/5/26-28.
- 139) 河野春奈, 武藤 智, 堀江重郎. 日本人 ADPKD におけるメイヨー分類の有用性の検討. 第 60 回日本腎臓学会学術総会. 仙台. 2017/5/26-28
- 140) 鈴木康夫, 小田圭子, 平林陽介, 春木あゆみ, 伊藤貴康, 藤本美香, 村田智博, 石川英二, 伊藤正明. 当院におけるループス腎炎の検討. 第 60 回日本腎臓学会学術総会. 仙台. 2017/5/26-28.
- 141) 平林陽介, 小田圭子, 鈴木康夫, 春木あゆみ, 伊藤 貴康, 藤本 美香, 村田 智博, 石川 英二, 伊藤 正明. 妊娠中に顕在化した腎疾患患者 10 症例の検討. 第 60 回日本腎臓学会学術総会. 仙台. 2017.5.26-28.
- 142) 藤本直紀, 伊藤貴康, 石川英二, 土肥薫, 伊藤正明. 透析中に血圧上昇を認める慢性腎不全患者において L/N 型カルシウム拮抗薬が透析時血圧に与える効果. 第 6 回臨床高血圧フォーラム. 岡山. 2017/5/13-14.
- 143) 土肥 薫, 松尾浩司, 村田智博, 石川英二, 岡本隆二, 藤井英太郎, 山田典一, の村信介, 伊藤正明. 維持血液透析患者における心臓弁膜の構造的および機能的特徴三重県内多施設共同前向き観察研究. 第 6 回臨床高血圧フォーラム. 岡山. 2017/5/13-14.
- 144) 河野春奈, 武藤 智, 堀江重郎. CKD stage4 の ADPKD に対するトルバプタンの長期治療成績. 第 105 回日本泌尿器科学会総会. 鹿児島. 2017/4/21-24
- 145) 武藤 智, 望月俊雄, 土谷 健, 西尾妙織, 花岡一成, 乳原善文, 奴田原紀久男, 鶴屋和彦, 丸山彰一, 成田一衛, 堀江重郎. 多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究(J-PKD レジストリー研究): 最終報告. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 146) 望月俊雄, 武藤 智, 安田守良, 岡田暢. Tolvaptan を新規に投与した ADPKD 患者の解析結果 SLOW ADPKD study の中間解析結果. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 147) 河野春奈, 武藤 智, 堀江重郎. ADPKD に対するトルバプタンの総投与量と治療効果の検討. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 148) 秋山 健一, 椎崎 和弘, 中野 寿洋, 小原 麻里菜, 杉浦 秀和, 望月 俊雄, 土谷 健, 新田 孝作, 黒尾 誠. CPP(calciprotein particles)は, リン摂取で誘導される FGF23(fibroblast growth factor 23)分泌, 合成に関与している. 第 61 回日本腎臓学会学術総会. 新潟. 2018/6/8-10
- 149) 内山 清貴, 他. 腹膜透析 (PD) 患者における動脈硬化と筋肉量および下肢筋力の相関. 第 22 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会. 宮崎. 2018/4/28-29
- 150) 内山 清貴, 他. トルバプタン投与下の多発性嚢胞腎 (ADPKD) 患者における, eGFR 低下速度および尿浸透圧の関連因子について. 第 22 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会. 宮崎. 2018/4/28-29
- 151) 河野春奈, 武藤 智, 堀江重郎. ADPKD に対するトルバプタンの治療効果. 第 47 回日本腎臓学会東部学術大会. 横浜. 2017/10/28,29
- 152) 三浦健一郎, 服部元史: 水・電解質の controversy ネフローゼ症候群に対して“アルブミン+ラシックス”は有効か. 第 47 回日本腎臓学会東部学術大会. 横浜. 2017/10/28,29
- 153) 三浦健一郎, 服部元史: 小児領域におけるアフェレシス療法のエビデンス: 巣状分節性糸球体硬化症. 第 38 回日本アフェレシス学会, 浦安, 2017/10/21
- 154) 武藤 智. 腎疾患ガイドライン解説 2 教育講演 7 エビデンスに基づく多発性嚢胞腎 (PKD) 診療ガイドライン 2014. 第 47 回日本腎臓学会西部学術大会. 岡山. 2017/10/13, 14
- 155) 三浦健一郎, 服部元史: 小児敗血症の

- ガイドラインの動向. 第 28 回日本急性血液浄化学会, さいたま, 2017/9/23
- 156) 三浦健一郎, 石塚喜世伸, 浅野達雄, 滝澤慶一, 富井祐治, 宮部瑠美, 笹田洋平, 橋本多恵子, 佐藤泰征, 金子直人, 藪内智朗, 久野正貴, 近本裕子, 秋岡祐子, 服部元史, 石田英樹, 田邊一成. リツキシマブを用いた小児 ABO 血液型不適合生体腎移植の安全性と有効性の検討. 第 33 回腎移植・血管外科研究会, 小田原, 2017/7/7
- 157) 仲谷慎也, 等. 血液透析患者におけるキサンチン酸化還元酵素活性の検討. 第 62 回日本透析医学会学術集会. 横浜. 2017/6/16-18
- 158) 三浦健一郎, 服部元史. 小児の血液透析～現状と未来～ 第 62 回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2017/6/16-18
- 159) 三浦健一郎. 遺伝性尿細管機能異常症の up to date. 第 52 回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017/6/1
- 160) 武藤 智, 望月俊雄, 安田守良, 岡田暢, 坂東孝介. Tolvaptan を投与した ADPKD 患者の患者背景, eGFR, TKV の変化, 安全性 SLOW ADPKD study の中間解析結果. 第 60 回日本腎臓学会学術総会. 仙台. 2017/5/26-28
- 161) 武藤 智, 河野春奈, 堀江重郎. 日本人 ADPKD におけるメイヨー分類の有用性の検討. 第 60 回日本腎臓学会学術総会. 仙台. 2017/5/26-28
- 162) 武藤 智, 望月俊雄, 土谷 健, 西尾妙織, 花岡一成, 乳原善文, 奴田原紀久雄, 鶴屋和彦, 成田一衛, 丸山彰一, 堀江重郎. 多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究(J-PKD レジストリー研究): 中間報告. 第 60 回日本腎臓学会学術総会. 仙台. 2017/5/26-28
- 163) 河野春奈, 武藤 智, 堀江重郎. CKD stage4 の ADPKD に対するトルバプタンの長期治療成績. 第 105 回日本泌尿器科学会総会. 鹿児島. 2017/4/21-24
- 164) 三浦健一郎, 服部元史. 小児 CKD と運動. 第 7 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, つくば, 2017/2/18
- 165) 三浦健一郎, 石塚喜世伸, 浅野達雄, 滝澤慶一, 富井祐治, 宮部瑠美, 笹田洋平, 橋本多恵子, 佐藤泰征, 金子直人, 藪内智朗, 久野正貴, 近本裕子, 秋岡祐子, 石田英樹, 田邊一成, 服部元史. リツキシマブを用いた小児 ABO 血液型不適合生体腎移植の検討. 第 50 回日本臨床腎移植学会, 神戸, 2017/2/16
- 166)

G. 知的財産権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし